

資 料 2

令和元年6月20日

生涯学習計画策定委員会資料

武蔵野市生涯学習計画 骨子案

武蔵野市生涯学習計画 骨子案

第1章 計画の基本的事項

1 生涯学習の定義・範囲

- ・本計画における生涯学習は、「人が生涯を通じて行う、あらゆる種類の学習」と定義します。
- ・生涯学習は、以下の2点で重要です。
 - ①個人のそれぞれの生活を豊かにする。
 - ②社会全体を豊かにする。
- ※個人の生活の豊かさが社会全体の豊かさをもたらすこともあるし、その逆もあるため、両者は密接に関連しているものであると考えられます。
- ・生涯学習の具体的な種類は図表1-1のとおりで、本計画ではこれら全てを取り扱います。
- ・ただし、行政が直接的に実施する事業、行政が間接的に他の主体（市民団体、大学、民間企業等）を支援する事業、行政と他の主体が連携して実施する事業についてのみを対象とするもので、行政以外の主体が独立して実施する事業については取り扱いません。
- ・また、現行計画と同様に、学校教育については武蔵野市学校教育計画に委ねることとします。

社会教育における学習	社会において広く行われる学習	・成人向けの講座、勉強会、その他イベント等における学習 ・家庭教育、学校教育以外の場面における青少年の学習
家庭教育における学習	家庭内における子どもの学習	・生活習慣や情操の形成、能力の向上等を目的として親などが行う一連の教育(遊びを含む)における子どもの学習
学校教育における学習	学校内における児童・生徒の学習	・教師などが行う授業における児童・生徒の学習 ・課外授業、学校行事等における児童・生徒の学習 ※詳細は学校教育計画に委ねる
その他	意図的に提供された機会によらずに行う学習	・自己学習：学習する意思を持ち、自ら行う学習 ・偶発的学習：学習する意思を持たないが、生活のあらゆる活動の中でたまたま何かを学ぶこと

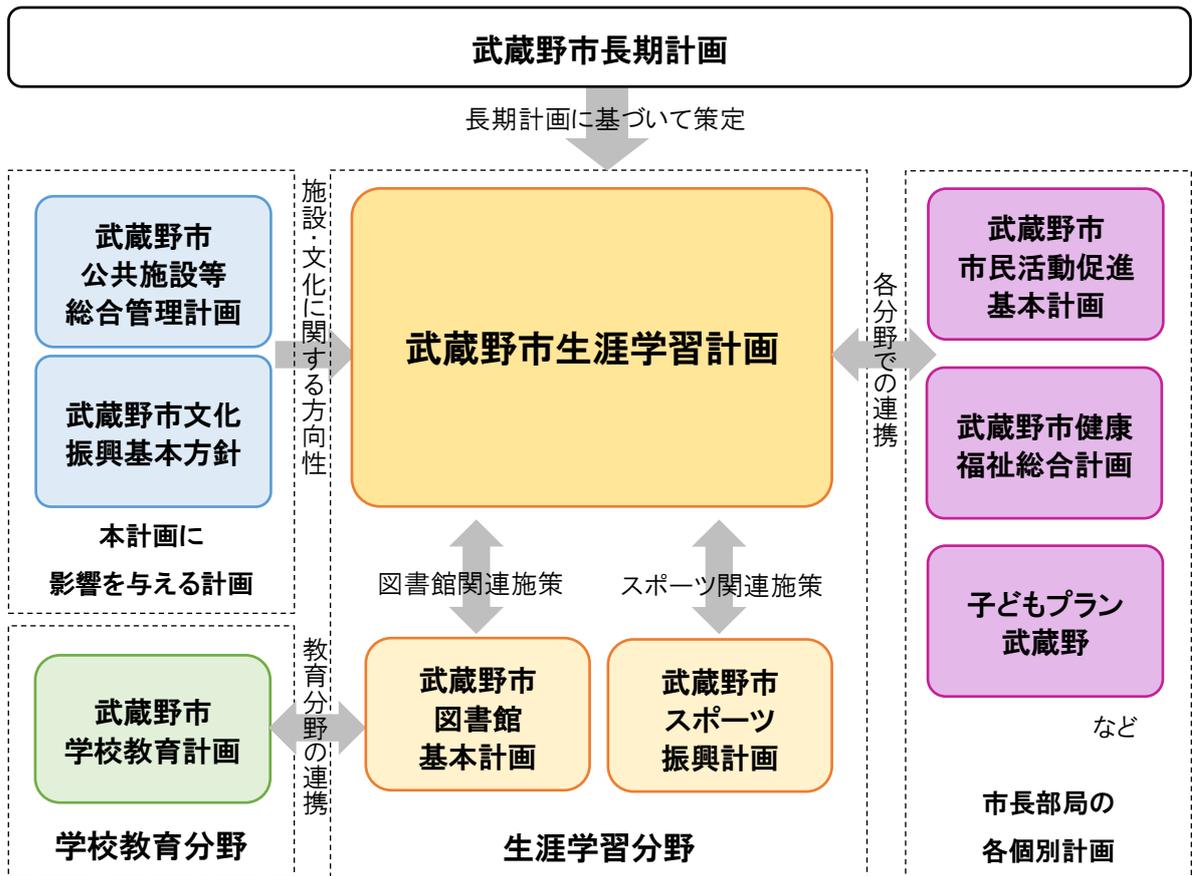
図表1-1 計画における生涯学習の範囲

2 計画策定の背景・目的

- ・本計画の目的は、生涯学習事業を体系化し、総合的、計画的に推進するものです。
- ・現行計画策定から10年間で、武蔵野プレイスや武蔵野ふるさと歴史館の開館等、生涯学習に関する本市の状況は大きく変化しています。また、「人生100年時代」や「超スマート社会(Society5.0)」に向けて、本市を取り巻く環境も変化しています。これを踏まえて計画を見直し、新しい計画として策定するものです。

3 計画の位置づけ

- ・計画の位置づけは、図表1-2のとおりです。
- ・武蔵野市長期計画、武蔵野市公共施設等総合管理計画、武蔵野市文化振興基本方針を踏まえ、行政が関与する生涯学習分野のマスタープランとして策定します。
- ・下位計画として、武蔵野市スポーツ振興計画と、武蔵野市図書館基本計画を位置づけます。
- ・その他、教育委員会の他の計画はもちろん、市長部局の各種計画とも連携しています。



図表1-2 計画の位置づけ

4 計画の期間

- ・計画の期間は令和2年度から令和11年度までの10年間で、必要に応じて計画期間中に見直しをします。

5 計画の進行管理

- ・毎年度、報告書を作成し、教育委員会や社会教育委員による点検・評価、議会への報告、市民への公表を行います。

第2章 武蔵野市の生涯学習の状況

1 本市の状況とこれまでの取り組み

(1) 基本的事項

- ・市内の生涯学習に関する市関連施設は、図表2-1のとおりです。特に、平成23年に開館した武蔵野プレイスは、図書館機能に加えて、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の機能も有しており、生涯学習の拠点となっています。



図表2-1 市内の生涯学習に関する市関連施設

- ・平成 31 年度現在、生涯学習に関して市（関連団体含む）が提供する主な生涯学習の機会は、
図表 2-2 のとおりです。教育部局はもちろん、市長部局も積極的に展開しており、その
テーマや対象は多岐にわたっています。また、学習の機会を提供するだけでなく、たとえ
ば団体への補助金交付等を通じて自主的な学びを促す事業もあります。なお、これ以外に
も市民団体や大学、民間企業等が生涯学習について実施する事業があります。

実施主体	テーマ						
	全般	文化・芸術・歴史	健康・スポーツ	自然・科学・環境	福祉・子育て	生活・実用	
（関連団体を含む） 教育部局	生涯学習 スポーツ課	土曜学校	市民文化祭	ファミリースポーツフェア	サイエンスフェスタ		
		学校施設開放	芸術文化協会委託事業	市民スポーツ フェスティバル			
			子育て中の方のための モーニングコンサート	子育て支援スポーツ教室			
	市民会館	市民講座	市民会館文化祭			母と子の教室	遊びのミニ教室
			こどもワークショップ			親と子の広場	
	武蔵野 ふるさと歴史館		企画展示				
			古文書解読講座				
			歴史館大学				
	図書館	図書の貸し出し				障害者サービス事業	
		どっきんどようび					
		こどもまつり					
	武蔵野プレイス	いきいきセミナー	ギャラリーコンサート		天体講座	聴覚障害者教養講座	食文化講座
		武蔵野地域自由大学	中近東文化センター 連携事業				キャリア養成講座
		武蔵野地域五大学 連携事業					
		プレイス・フェスタ					
	市長部局 （関連団体を含む）	コミセン文化祭	アルテ親子まつり	健康体操教室	むさしの環境フェスタ	子育てフェスティバル	むさしの青空市
			文化会館演奏会	ウエーキング教室	水の学校	ワークライフバランス 講演会	消費生活講座
				健康づくり出前講座	むさしのジャンボリー	認知症サポーター 養成講座	くらしフェスタ
				親子棚田体験	手話講習会	自転車安全利用講習会	

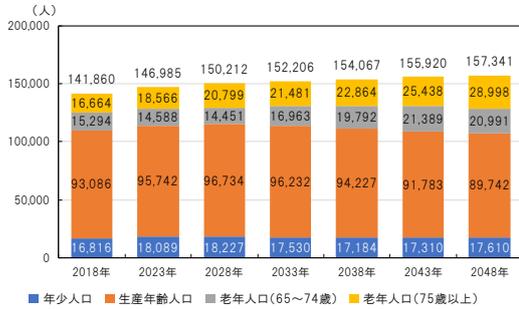
図表2-2 市が提供する主な学びの機会

- ・生涯学習に関する市民団体は、図表 2-3 のとおり、社会教育関係団体として市に登録のある団体だけで 308 団体あります（平成 31 年 3 月末時点）。これらは団体のメンバー自身の学びの場となっているだけでなく、メンバー以外の人へも学びの機会を提供しています。

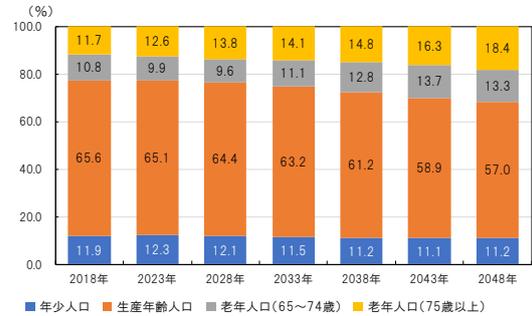
社会教育関係団体の種類	団体数
成人教養・研究系	75
成人芸能系	14
成人創作系	25
成人舞踊系	14
成人音楽系	39
成人体育系	72
成人地域・福祉系	43
青少年系	26
合計	308

図表2-3 社会教育関係団体の種類と団体数

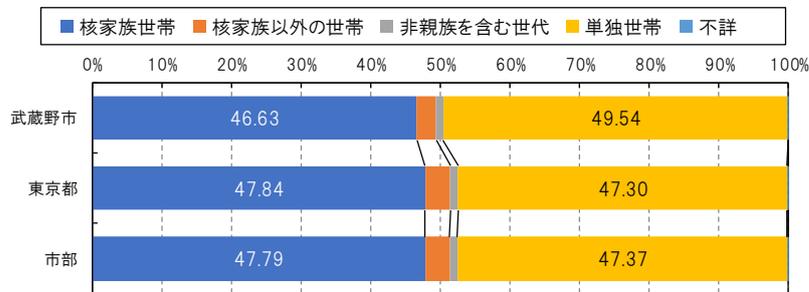
- ・人口については、図表2-4、2-5のとおりです。本市では2048年（令和30年）まで人口減少と少子化は見込まれませんが、老年人口の増加により一層の高齢化が見込まれます。また、図表2-6によれば、約半数が単独世帯であることがわかります。高齢化とあわせて考えれば、一定数の独居老人の存在が想定されます。



図表2-4 人口推計:年齢3区分別人口

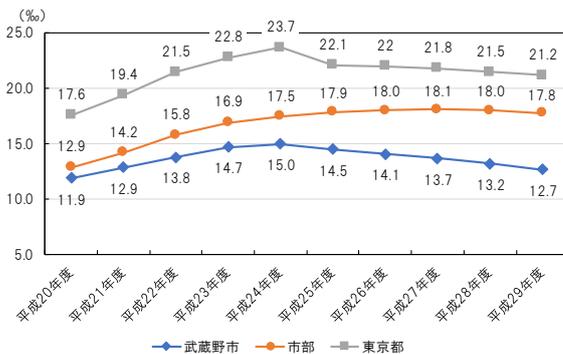


図表2-5 人口推計:年齢3区分別人口の比率



図表2-6 世帯構成の割合

- ・市民の所得については、図表2-7のとおり、多摩26市の中で最も高くなっています。
- ・また、生活保護受給世帯の割合については、図表2-8のとおりで、東京都全体、市部全体の平均と比較して相対的に低い状態にあるとともに、減少傾向が見られます。しかし、現実にそのような世帯が一定数あるということは、経済的余裕と学びの経験の間に相関関係があるという観点からも(後述)、留意する必要があります。



図表2-8 被保護率の推移



図表2-7 一人当たりの課税対象所得

(2)前計画(平成22年度～令和元年度)の進捗

・図表2-9のとおり、おおむね順調に進捗しています。

前計画(平成22年度～令和元年度)の進捗

※赤字の記載は重点施策の進捗

理念	基本目標	施策の考え方	進捗
ともに学び、つなぎあう ひと・まち・文化	1 学びを育む基礎づくり	1-1 人それぞれの「学びはじめ」の支援	乳児から高齢者まで、あらゆる年齢の人々が気軽に学びはじめるよう、それぞれの段階に適した生涯学習事業が多数実施されている。
		1-2 誰でも、いつでも、どこでも学べる環境づくり	・平成23年に、武蔵野プレイスが開館した。図書館機能に加えて、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援といった機能も有しており、利用者数は年間192万人(H30)に達している。 ・「武蔵野市図書館基本計画」に基づき、図書館の運営やサービスの充実のために、吉祥寺図書館のリニューアルと指定管理制度の導入、ブックポストの増設、自動貸出機・返却機の導入等を実施している。 ・高齢者、障害者、外国人といった人々が学びにアクセスしやすくなるために、パソコン教室、対面朗読、日本語サロン等を実施している。
		1-3 健康で学び続けるための支援	市民の自主的な学びを通して健康を支援するために、各種健康に関連する事業を多数実施している。
	2 多様に学ぶ機会の拡充	2-1 ライフスタイルに応じた学びの支援	・駅前という好立地において夜間・休日開館を実施する武蔵野プレイスが開館したことにより、社会人をはじめとして多忙による時間不足が学習の障壁となっていた人々へのニーズを一定程度満たしている。 ・子育て中の方や定年退職後の方、介護中の方、就労を目指す方等、様々なライフステージの人々に対して生涯学習の機会を提供している。
		2-2 さまざまなテーマによる学習機会の提供	平成20年度に実施した市民意識調査においてニーズが多かった文化・芸術、スポーツをはじめとして、語学、自然体験、食、安全、福祉等、多岐にわたるテーマについて、生涯学習の機会を提供している。
	3 学びの成果の共有	3-1 自主的な学びと活動の活性化	・平成24年度より、団体活動支援として、生涯学習事業プロポーザル制度を開始した。これに基づいて団体が必要とするサポートを実施したことにより、団体の活性化や自立を促した。 ・平成28年度より、生涯学習事業プロポーザル制度を改め、生涯学習事業費補助金および子ども文化・スポーツ・体験活動支援事業費補助金制度を開始した。これにより、一層広範囲の団体のサポートを可能にし、多様化するニーズに応えている。
		3-2 共助につながる学び	市民同士がお互いを思いやる「共助」につながるよう、認知症サポーター養成講座や日本語交流員養成講座等を実施している。
	4 市民文化の発信	4-1 発表や交流の促進	青空市、市民文化祭、むさしの環境フェスタ、むさしの国際交流まつり等においては、担い手と来場者双方による交流を通じ、武蔵野市の風土や地域課題に基づく市民文化の発信が積極的になされている。
		4-2 市民・団体の自律的な活動への協力	平成23年度に開設された武蔵野プレイスは、団体活動に関する情報の収集・提供・番集・編集・発信、情報交換スペースの提供、団体経営マネジメント講座の実施、団体設立コンサルティング等を行うことにより、団体の自律的な活動を支援している。
	5 生涯学習社会基盤の強化	5-1 地域資源と連携強化	亜細亜大学、成蹊大学、日本獣医生命科学大学、東京女子大学、武蔵野大学(五大学)との連携はもちろん、むさしのサイエンスフェスタ等に見られるように、市立小中学校教員やNPO、企業等との連携も深めている。
		5-2 学びを促進する体制の整備	・生涯学習事業が網羅的に把握できるパンフレットとして、平成22年度より「大人のための生涯学習ガイド」を発行し、関係各所に配架している。また、平成24年度より子ども向けの「土曜学校ガイド」と「子ども自然体験ガイド」を統合し、「小・中学生の講座まるごとナビ」を発行し、関係各所に配架するとともに、市立小中学校の全児童・全生徒に配布している。 ・生涯学習振興事業団と文化事業団の管理する施設の予約についてウェブ上で一元化し、利用者の利便性の向上を実現した。 ・月に一度、生涯学習スポーツ課、武蔵野プレイス、市民活動推進課、児童青少年課からなる武蔵野プレイス関係各課連絡調整会議を開催し、生涯学習に関して庁内横断的な情報共有を行っている。 ・平成23年度に生涯学習振興事業団が発足したことに伴い、従来スポーツ振興事業団はこれに組み入れ、生涯学習とスポーツを一体的に推進している。
	6 未来への学びの継承	6-1 次世代へ広がる学び	・西部図書館跡地に武蔵野ふるさと歴史館が開館し、市固有の歴史や文化について市民が学ぶ場が充実した。 ・武蔵野らしい文化として、前述のとおり、五大学と連携しながら学術・文化の振興を図っている。また、独自の色彩を持つカルチャースポットである吉祥寺では、ジャズやアニメ、演劇等のイベントが行われている。

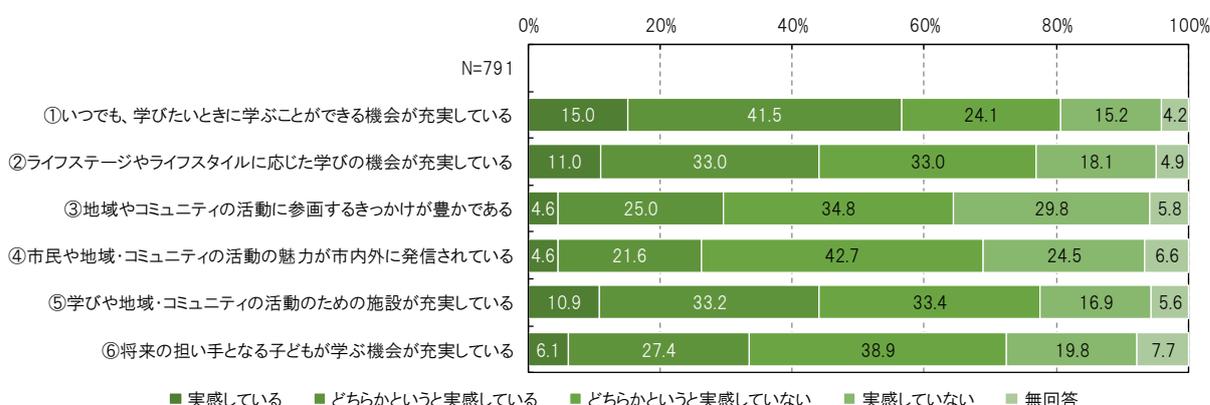
図表2-9 前計画の進捗

(3)生涯学習に関する調査(平成30年度実施)の結果

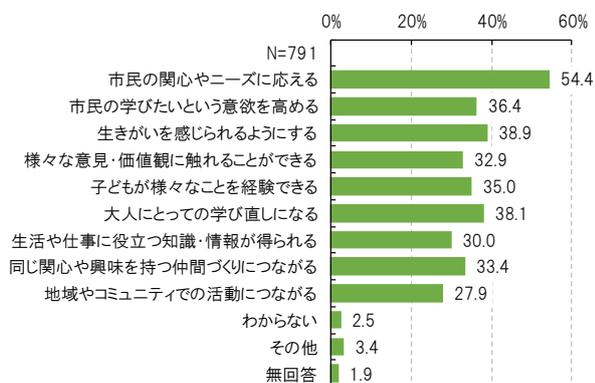
・調査結果から見えてくるポイントは、以下の3つです。

①学びの機会について

図表2-10のとおり、市民が日々の生活の中で実感していることとして、「いつでも、学びたいときに学ぶことができる機会が充実している」という項目に対し、「実感している」、「どちらかという実感している」と答えた人は、合わせて56.5%です。また、図表2-11のとおり、市が学びの機会の提供をする際に重視することとしては、「**市民の関心やニーズに応えること**」と答えた人が**54.4%**と最も多い状況です。さらに、図表2-12のとおり、障害者団体へのヒアリングによれば、障害者の方は、既存の機会に参加しやすくなる配慮や、障害の程度に応じた参加の機会を求めていることがわかりました。



図表2-10 日々の生活の中で実感していること



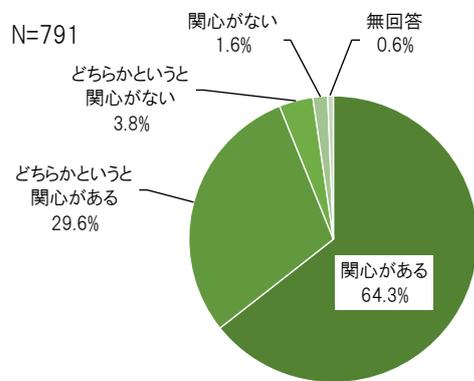
図表2-11 市が学びの機会提供の際に重視すること

項目	内容
身体障害者の団体	障害に応じた機会提供よりも、既存の機会に参加しやすいよう必要な知識を持った人材の配置等の配慮がほしい。
知的障害者の支援団体	障害の程度に応じて参加できる機会がほしい。音楽や創作活動の機会であれば参加しやすいと思われる。
精神障害者の支援団体	学び自体がケアの一環になることもあるため、既存の機会へのハードルを下げる工夫がほしい。ただし、精神障害者は外出が困難である場合もあるため、留意してほしい。

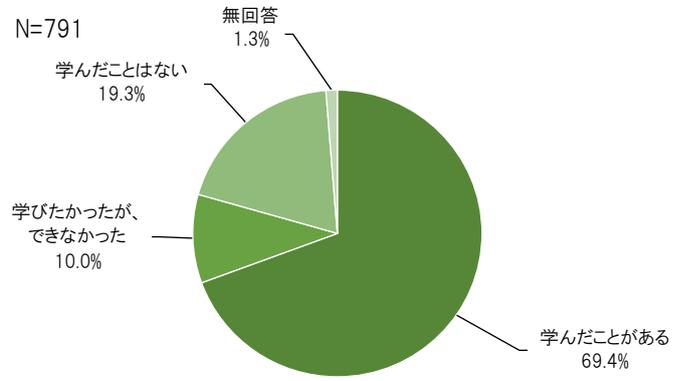
図表2-12 障害者団体へのヒアリング結果

②学びの関心と障壁について

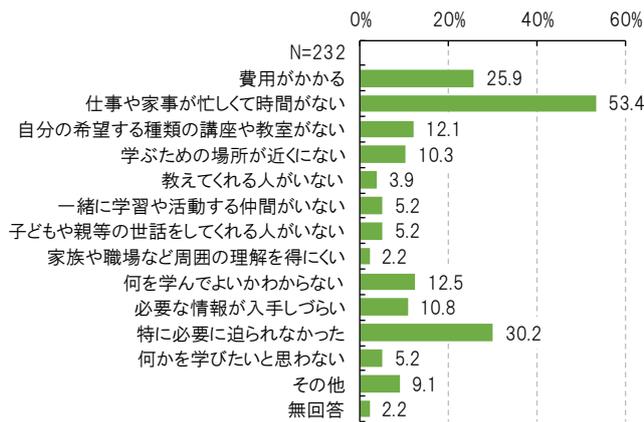
図表2-13のとおり、学ぶことに対する関心については、「関心がある」人と、「どちらかというに関心がある」人を合わせれば、93.9%となります。さらに、図表2-14のとおり、過去1年間で何かを「学んだことがある」人が69.4%、「学びたかったが、できなかった」人が10.0%であることを鑑みても、多くの人が学びに関心や意欲を持っていることがわかります。一方で、図表2-15のとおり、関心を持ちながらも過去1年間で何かを学ばなかった人（関心層）は、学ばなかった理由として、仕事や家事が忙しくて時間がないと最も多く答えています（57.6%）。また、図表2-16のとおり、関心層の人は、自主的に学んだり、調べたりするようになるためには何が必要かについて、「あまり費用がかからずできること」（49.3%）、「学ぶための場所が近くにあること」（42.9%）、「初めてでも気軽に参加できること」（41.4%）を多く答えています。なお、図表2-17のとおり、経済的な余裕・時間的な余裕と学びの経験の間には相関関係が見られます。



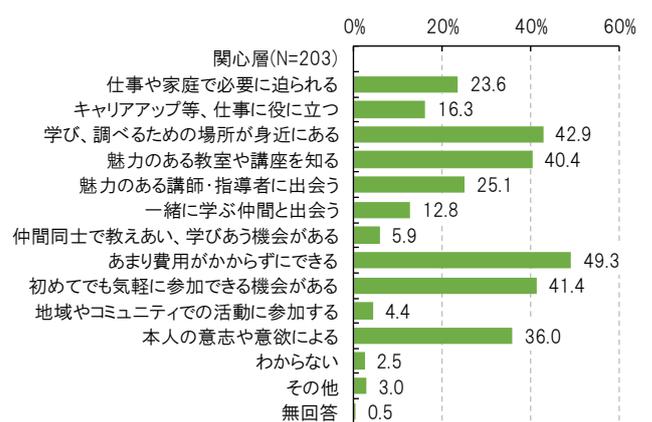
図表2-13 学ぶことに対する関心の有無



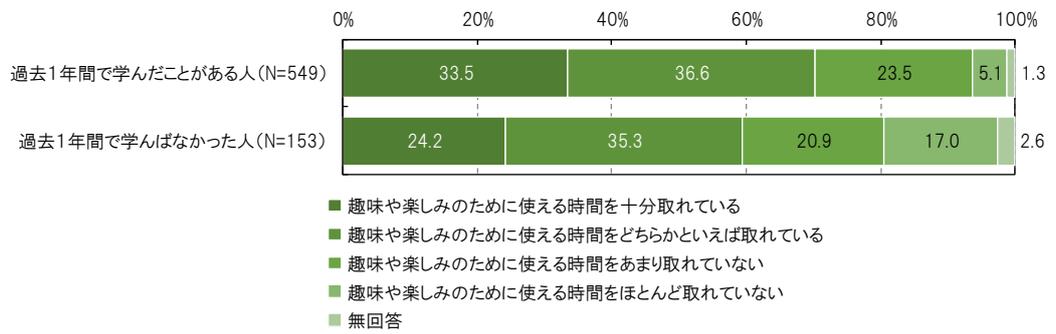
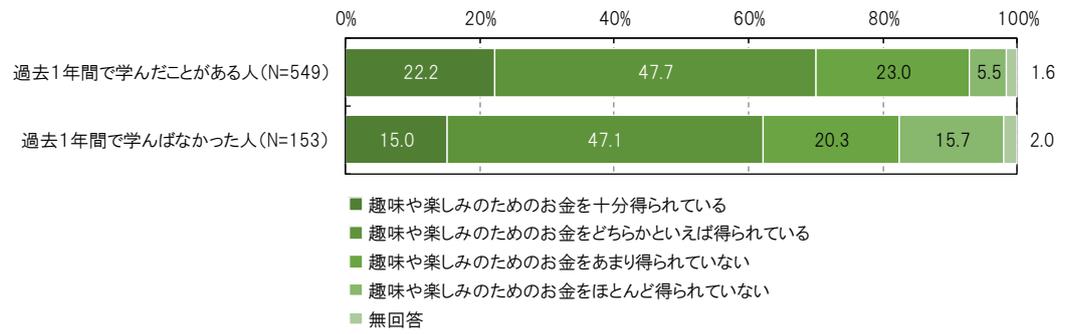
図表2-14 過去1年間で学んだかどうか



図表2-15 過去1年間で学ばなかった理由



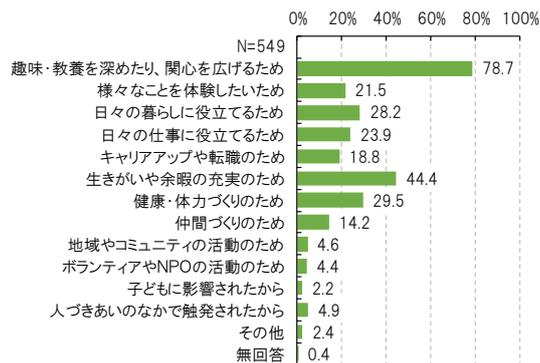
図表2-16 関心層にとっての学ぶためのきっかけ



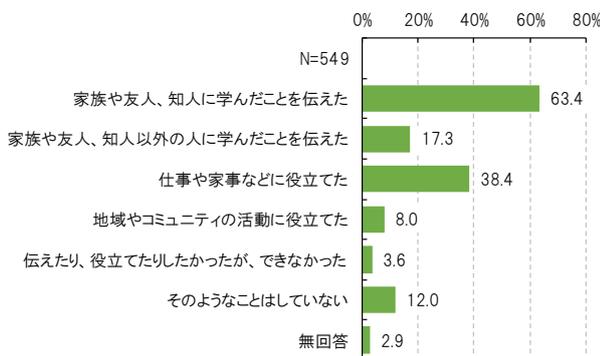
図表2-17 経済的余裕・時間的余裕と学びの経験の関係

③学びと地域・コミュニティの関係について

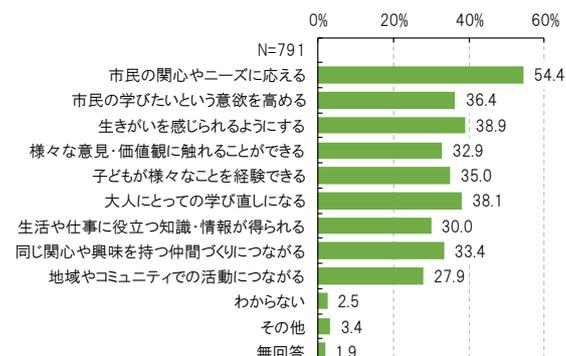
仲間づくりや地域活動のために学びをはじめた人は少なく（それぞれ14.2%、4.6%、表図表2-18）、実際に学んだことを地域やコミュニティの活動に役立てた人も少ない状況です（8.0%、図表2-19）。また、市が学びの機会を提供する際に重視することとして、「地域やコミュニティでの活動につなげる」と答えた人は、27.9%で最も少なくなっています（図表2-20）。ただし、約8割の人が学んだことを家族、友人、知人、それ以外の人に伝えており（図表2-19）、学びがコミュニケーションにつながっていることがわかります。



図表2-18 過去1年間に何かを学んだ理由



図表2-19 学んだことの活かし方



図表2-20 市が学びの機会提供の際に重視すること(再掲)

2 本市の特色と課題

これまで見てきた「基本的事項」、「前計画の進捗」、「生涯学習に関する調査(平成 30 年度実施)の結果」の3つの視点から、生涯学習に関する本市の特色と課題をまとめると、以下のようになります。

(1)特色として捉えることができる点

A 市民団体が主体的に活動していること

本市のコミュニティの歴史からもわかるように、武蔵野市民には主体的に活動する気風があります。実際、生涯学習に関しても、多くの団体が主体的に活動しており、団体のメンバー自身が学習することはもちろん、それ以外の人へも学びの機会を提供しています。市はこれら団体に対して、補助金の交付等の必要なサポートを実施してきたところですが、そもそも生涯学習の考え方は市民の主体性に支えられなければ成り立たないという原則を念頭に、引き続き団体への適切な支援を実施していく必要があります。

B 多様な事業主体と連携できる環境があること

市内および近隣には、5つの大学（亜細亜大学、成蹊大学、東京女子大学、日本獣医生命科学大学、武蔵野大学）が点在しており、専門性の高い教育を提供しています。また、生涯学習に関する市民団体の活動や民間事業者の商業活動も盛んです。市はこれら主体と既に連携し、生涯学習に関する各種事業を展開しているところですが、多様化・高度化するニーズに応え、また行政以外の主体の活力を取り入れる観点から、今後は連携をより強化していく必要があります。

C 生涯学習に関連する市の施設が充実していること

武蔵野プレイス、図書館、市民会館、ふるさと歴史館等、生涯学習に関する施設は既に充実していると言えます。中でも、図書館機能に加えて生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援といった機能を有する武蔵野プレイスは、他の自治体に類を見ないオリジナリティのある施設で、今後ますます武蔵野らしい生涯学習を展開する拠点としての役割が期待されています。引き続き、これら施設のそれぞれの役割を明確にしながら、有効に活用していく必要があります。

(2)課題として捉えなければならない点

D 気軽さと身近さが求められていること

多くの人が学びに関心を持っていますが、時間、費用、場所の近さ等が学びの障壁になっています。また、様々な主体が多種多様なテーマについて学びの機会を提供している中では、学びの機会に関する情報提供のわかりやすさも重要な課題です。あるいは、障害者は既存の機会に参加しやすくなる配慮や、障害の程度に応じた学びの機会を求めています。これらをまとめれば、あらゆる人にとっての「気軽さ」と「身近さ」が求められていると言え、市はこのことを強く意識して施策を展開する必要があります。

E 一層の高齢化が見込まれること

本市では、当面の間、人口減少と少子化は見込まれませんが、一層の高齢化が見込まれています。また、令和20年ごろには、いわゆる団塊ジュニアの大量退職が見込まれるため、学び直しのニーズが一気に増加することが考えられます。これまでも市は教育部局と福祉部局が連携しながら高齢者に対する学びの機会を提供してきたところですが、引き続き、自宅でも職場でもない第三の場所である「サード・プレイス」の考え方を念頭に、高齢者向けの学びを充実させる必要があります。あわせて、高齢化および人生100年時代の到来は、高齢者に限らず、人の生き方がますます多様化していくことを示唆しているため、ライフステージやライフスタイルについて新しく定義しながら、それぞれに合った学びを提供する必要があります。

F 生涯学習と地域活動が結びついていないこと

生涯学習に関する市民団体は積極的に活動をしているものの、各個人に目を向けてみれば、多くの方は自分の生活の向上や楽しさのために学んでいるのであって、地域やコミュニティのために学んでいるわけではありません。一方で、福祉や防災、環境等の地域課題は山積しており、その解決に対して生涯学習の考え方もアプローチの一つとして重要です。したがって、人それぞれの学ぶ理由を尊重しながらも、自分の住むまちをよりよくするために、学んだことを地域社会に「おくる」システムを整備し、推進する必要があります。

第3章 武蔵野市の生涯学習がめざすもの

(1)基本理念

現状や課題をもとに、今後の生涯学習施策のありかたを基本理念として設定します。

キーワード：

- ・武蔵野らしさ
- ・多様な主体との連携
- ・多様化するニーズ
- ・主体性、自主性、自律性
- ・いつでも、だれでも
- ・気軽さ、身近さ
- ・地域
- ・学び送り

※現行計画の基本理念：「ともに学び、つなぎあう ひと・まち・文化」

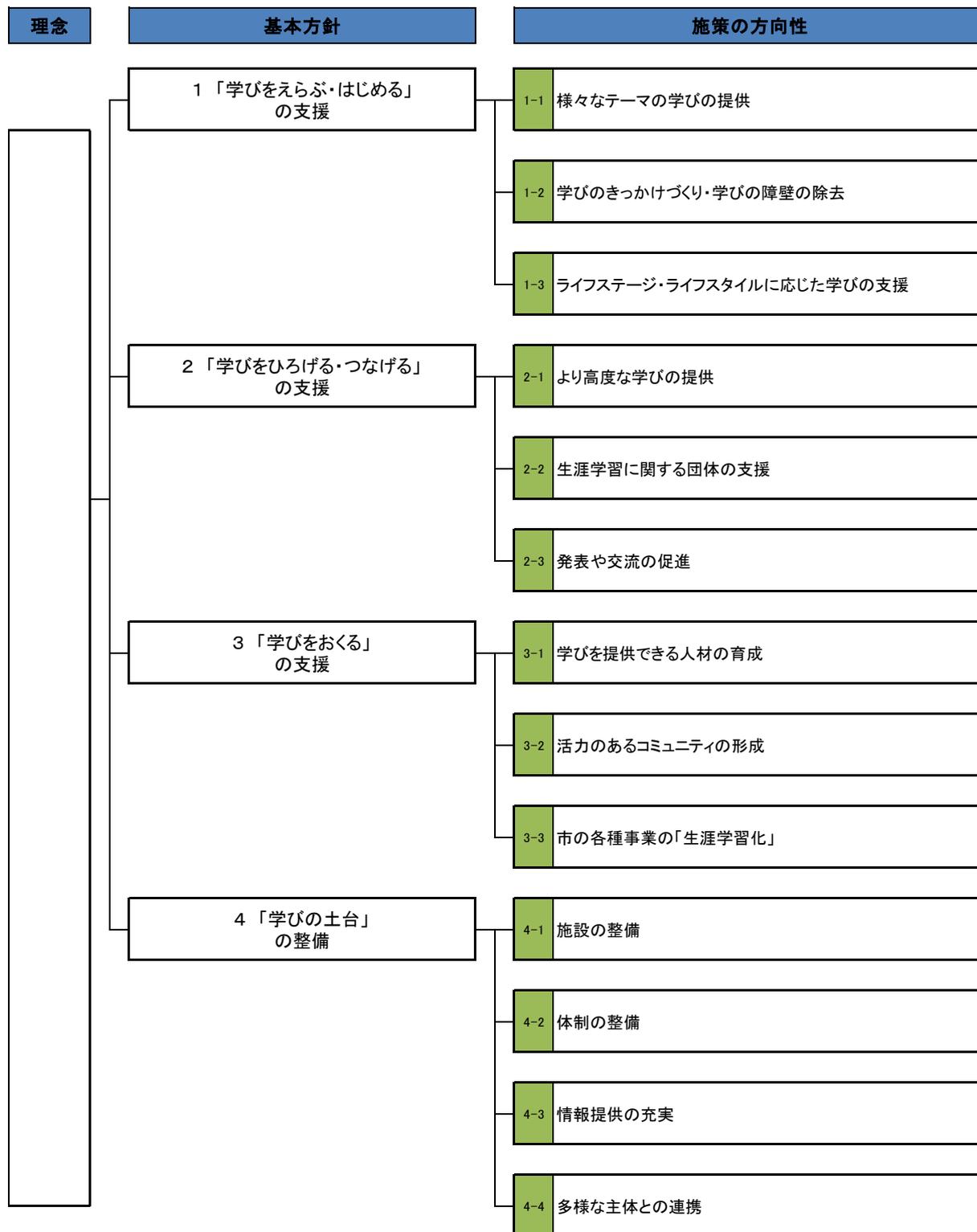
知ることに親しみ、学ぶことを求める人々の知的好奇心に応え、学びたいときに、いつでも学びはじめることができるようなきっかけづくりや環境を整備します。

また、市民が学びを継続することを通して自分づくりやまちづくり、地域に関わる人づくりができるように支援し、成熟した生涯学習社会の実現をめざします。

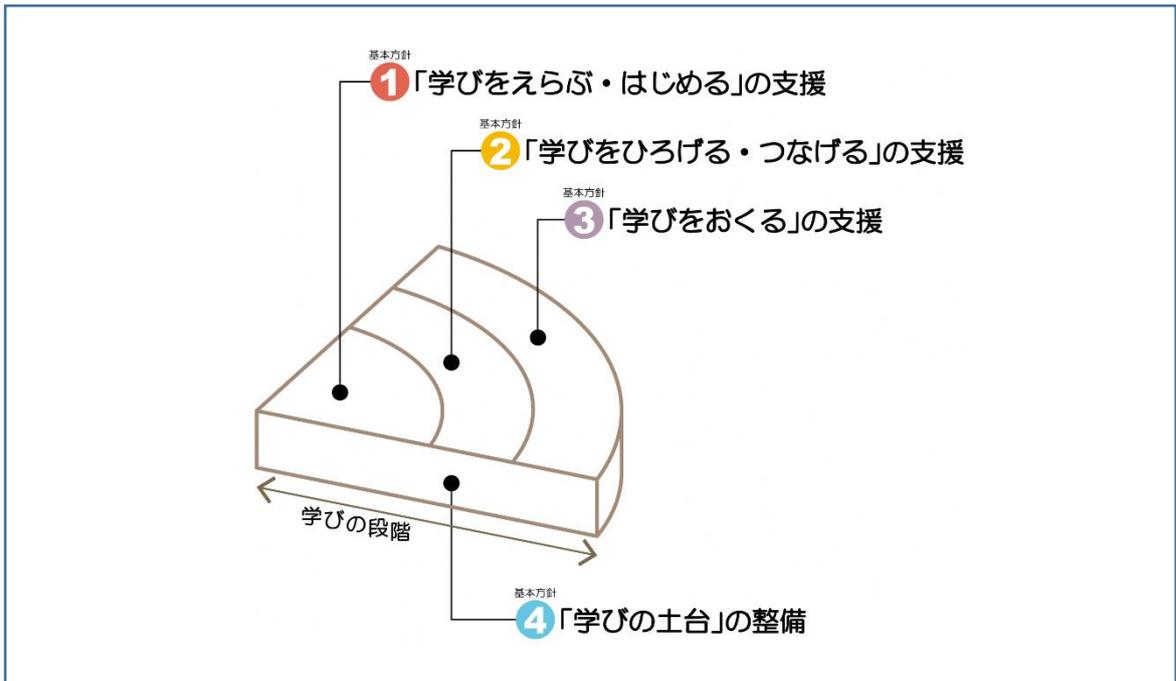
(2) 施策体系

基本理念をもとに、今後の生涯学習施策の基本方針とそれに連なる施策を設定します。

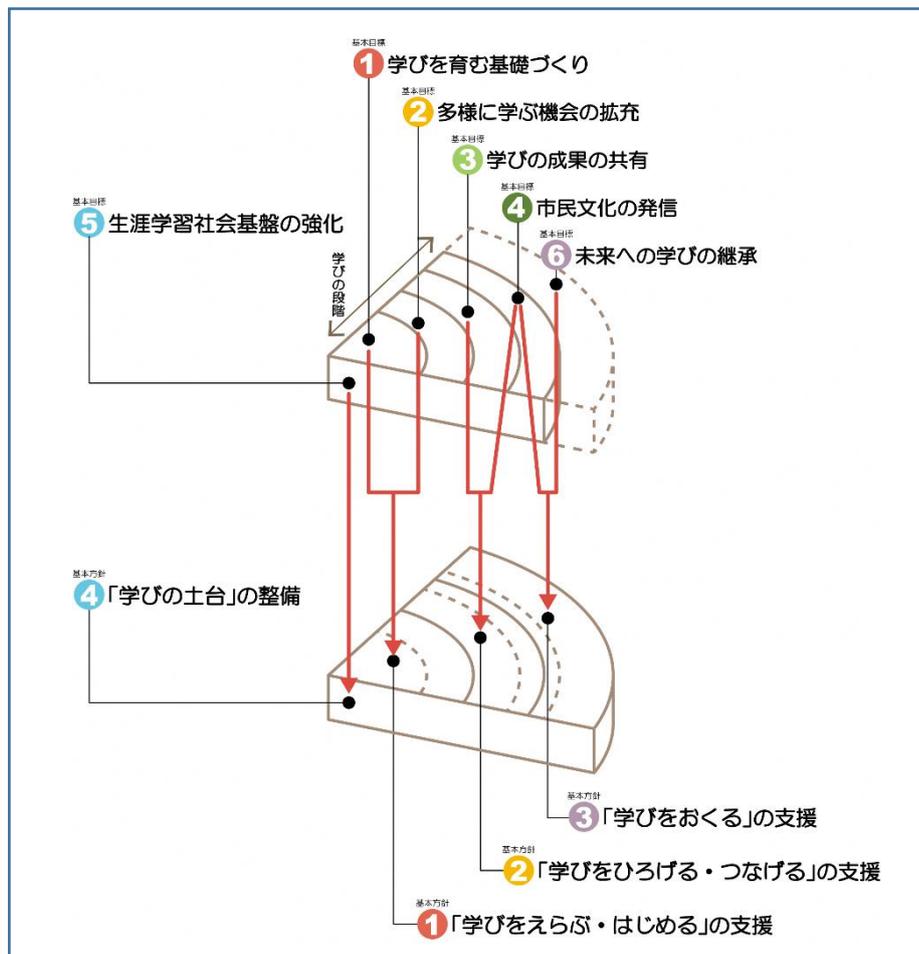
施策体系図



図表3-1 施策体系図



図表3-2 基本方針のイメージ



図表3-3 基本目標・基本方針の新旧対応表

(3) 施策概要

1 「学びをえらぶ・はじめる」の支援

多様化するニーズに応えるため、あらゆる人が豊富な選択肢の中から気軽に学びはじめられるように、年齢やライフステージ、ライフスタイル、障害の有無等を考慮しながら、それぞれに適した機会を提供します。

1-1 様々なテーマの学びの提供（特色・課題：AB）

情報化社会の進展やグローバル化等を背景として、個人の興味は多様化しており、今後ますます多様化していくことが見込まれます。さらに、平成30年度に実施した市民向けアンケートにおいても、「市が生涯学習の機会を提供する際に重視すべきことはどのようなことだと思いますか」の問いに対し、「市民の関心やニーズに応える」と答えた人が54.4%で最も多くなっています。このことを前提に、教育委員会が他部局と連携することはもちろん、市民団体や大学、民間企業等の多様な主体と連携して学びの選択肢を増やししながら、これらニーズに応えます。

現在実施している主な事業

～土曜学校～

【実施者】生涯学習スポーツ課、武蔵野プレイス、各大学

小中学生を対象に、様々なテーマの講座や体験教室を土曜日に開催し、これらを「土曜学校」という一つの枠組みでまとめています。サイエンスクラブ、ピタゴラスクラブ、おかねの教室、ことば探検隊、英語体験講座、森林体験教室等、学校ではあまり教えてくれない、しかし社会を生き抜く上でとても重要なことを、多彩なテーマで子どもたちに伝えています。

写真もしくは図表等

1-2 学びのきっかけづくり・学びの障壁の除去（特色・課題：BCDE）

主体的に物事を学ぶ姿勢を身に付けるには、子ども時代に知的好奇心を育むことが重要です。このため、子どもが学びの楽しさに気づき、生涯を通じて主体的に学んでいけるように、教育委員会と福祉部局や子ども家庭部局等が連携しながら、学びのきっかけづくりに取り組みます。また、高齢者、障害者、外国人等は、身体上・言語上の理由や、スマートデバイスの操作の不慣れさ等から、学びはじめに障壁を感じている場合があります。このため、これら障壁となりうるものを取り除き、あらゆる人がスムーズに学びはじめられるよう、必要な措置・支援を実施していきます。

<p>現在実施している主な事業 ～子どもに対する読書の動機づけ～ 【実施者】図書館、小学校</p> <p>市内の小学校と連携して50年間継続している「読書の動機づけ指導」は、全国的にも注目される事業として平成14年には文部科学大臣賞を受賞しています。</p> <p>これは、講師と図書館職員が学校を訪問し、学校図書室等を会場に読書指導を行うものです。第1部は児童を対象に、図書館紹介、ブックトーク、読み聞かせ等を行い、第2部は参観の保護者の方々を対象に、感想をうかがったり、質問や読書相談を受けたりします。</p> <div data-bbox="226 1458 708 1592" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">写真もしくは図表等</div>	<p>現在実施している主な事業 ～障害者を対象とする各種講習会～ 【実施者】障害者福祉課、障害者福祉センター</p> <p>障害者福祉センターでは、障害者を対象に、様々な講習会を開催しています。</p> <p>障害の種類や程度にあわせ、社会生活を送るうえで必要な技術だけでなく、文化・芸術・スポーツ等、生活にうるおいを与える趣味や教養に関する学びの機会を提供しています。</p> <div data-bbox="874 1301 1356 1435" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">写真もしくは図表等</div>
---	--

1-3 ライフステージ、ライフスタイルに応じた学びの提供（特色・課題：BCDE）

本市の人口推計では、一層の高齢化の進展が見込まれており、またそのような中で、高齢者の健康長寿化から、そう遠くない未来に人生100年時代が到来すると言われてい
ます。このことはつまり、高齢者に限らず、人の生き方がますます多様化していくこと
を意味しており、今後は、学校の卒業、就職、結婚、出産、退職等のライフステージに
ついて新しい捉え方をする必要があります。このため、市はライフステージについては
もちろん、年齢にとらわれない人それぞれの生き方であるライフスタイルも意識しなが
ら、多様化するニーズに合った学びを提供します。

<p>現在実施している主な事業 ～いきいきセミナー～ 【実施者】武蔵野プレイス</p> <p>高齢者に学習と仲間づくりの場を提供することにより、学ぶ喜びの体得や生きがいをもって心身ともに健全な生活をしていくことを目的として実施される事業です。</p> <p>前期・後期それぞれ全13回の講座等で、そのテーマは介護予防・認知症予防のように高齢者向けに特化したものだけでなく、文化、芸術、社会を扱うものも多く、また近隣施設のバス見学会も行います。</p> <p>なお、高齢者が参加しやすいよう、前期と後期でそれぞれ東西の会場に分けて実施しています。</p> <div data-bbox="288 1626 772 1760" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">写真もしくは図表等</div>	<p>現在実施している主な事業 ～子育て中の方のためのモーニング・コンサート～ 【実施者】生涯学習スポーツ課</p> <p>子育て中の市民の方も生涯学習に参加できるように、平成2年度から託児付きのモーニング・コンサートを開催しています。</p> <p>親子で参加できる学びの機会は充実していますが、子どもは参加できず、あくまで子育て中の大人のみを対象とする事業はあまりないため、ライフステージに応じた学びの機会として特徴的な事業と言えます。</p> <div data-bbox="890 1491 1374 1626" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">写真もしくは図表等</div>
--	---

2 「学びをひろげる・つなげる」の支援

学んだことを自分のさらなる学びに広げていくことはもちろん、学びを他者と共有することによって学びを深めたり、学びをツールとして他者とのコミュニケーションにつなげたりしていくことも支援します。

2-1 より高度な学びの提供（特色・課題：A B）

平成 30 年度に実施した市民向けアンケートにおいて、約 9 割の人が既に学んだことを今後も学び続けたいと答えていることから、より高度な学びの機会が求められています。このことを受けて、本市の強みである充実した施設や大学をはじめとする多様な学びの提供主体、活発な市民団体等の資源を存分に活用しながら、市民が自主的により高度な学びに取り組むことを促し、また必要に応じて既存の機会の「ステップアップ講座」の体系的な提供を検討します。

現在実施している主な事業

～「水の学校」～

【実施者】下水道課

平成 26 年度にスタートした「水の学校」は、くらしの中の身近な水循環、上下水道の役割、水に親しみ、楽しむ知恵、世界規模の水課題等、水に関する様々なテーマを取り扱うシリーズ講座です。

シリーズ講座を補完するものとして、「ステップアップ講座」が設定されており、参加者がより高度な学びに取り組めるような仕組みが整っています。さらに、シリーズ講座の修了生は「水の学校サポーター」となり、学びを生かし、深めながら、次年度以降の講座の企画・運営に携わっています。

写真もしくは図表等

2-2 生涯学習に関する団体の支援（特色・課題：A B F）

生涯学習に関するコミュニティや団体の活動は、学びの成果を共有することによって自らの学びを深めることはもちろん、学びを通じた仲間づくりや、所属するメンバー以外への学びの機会の提供といった観点から、非常に重要です。したがって、市は生涯学習に関するコミュニティや団体が自主的かつ活発に活動できるよう、補助金の交付をはじめとして必要な支援を実施するとともに、その支援のあり方について継続的に検討します。

現在実施している主な事業

～生涯学習事業費補助金、子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金～

【実施者】生涯学習スポーツ課

生涯学習に関する団体への補助金としては、全年齢向けの生涯学習事業に対して交付する「生涯学習事業費補助金」と、18歳までの子ども向けの生涯学習事業に対して交付する「子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金」の2つの制度があります。

交付の審査においては、団体構成員のための活動にとどまらず、広く市民に向けての活動かどうか審査のポイントとしています。

写真もしくは図表等

2-3 発表や交流の促進（特色・課題：A B F）

学びの成果を家族や友人、ともに学んだ仲間に対してはもちろん、それ以外の人々にも伝えることは、自身の学びの意欲を高め、他者の学びの関心を促します。とりわけ市民が市外の人に学びの成果を伝える場合は、武蔵野らしさの発信にもつながりうるもので、このことは住んでいる地域への愛着や誇りを育む意味においても重要です。市はこれらを意識しながら、たとえば市民文化祭や青空市、環境フェスタ、国際交流まつりといった市民の祭典等により、学んだ人が自分のコミュニティ以外の人や市外の人、あるいは外国人に対して発表し、また交流できる場を提供します。

現在実施している主な事業

～市民文化祭～

【実施者】生涯学習スポーツ課、武蔵野市民芸術文化協会

日ごろ芸術文化活動にいそしむ市民に創造と発表の機会を提供し、あわせて市民同士や市民と市外の人が交流を深めることを目的として、毎年秋に開催しています。平成30年度は、合計30行事をのべ33日間で行い、のべ10,000人以上が参加しました。なお、企画・運営は武蔵野市民芸術文化協会に委託しています。

写真もしくは図表等

3 「学びをおくる」の支援

誰かから受けた恩を、その人に返すのではなく、別の人を送ることを「恩送り」と言います。この発想を学びに当てはめると、学んだことを次の世代へ継承しようとすることは、いわば「学び送り」と言えるのではないのでしょうか。この「学び送り」の視点をもとに、学んだ成果を家族や友人等の身近な人に伝えるだけでなく、未来の次世代へ送ることによって、市民自らが地域課題を見据え、自分の住むまちをよりよくしていくことができる仕組みを整えます。

3-1 学びを提供できる人材の育成（特色・課題：A B E F）

既に学んだことについて、自らが講師となって他者へ学びを提供することは、自分の学びを深めるだけでなく、「学び送り」の視点からも重要です。とりわけ、人生100年時代においては、人生経験の豊かな高齢者はもちろん、あらゆる年齢、ライフステージの人が地域社会の一員としての当事者意識をもって「先生」となることが望ましいと考えられます。このため、市は市民の「学び」と「教え」をつなぐことを意識しながら、学びを提供できる人材の育成を推進します。

現在実施している主な事業

～中学生・高校生リーダー制度～

【実施者】児童青少年課

中学生、高校生を対象に、野外活動、保育体験、各種イベントスタッフ等に必要な知識、技術を習得するための講習会を開催し、次世代をリードする地域の担い手を育成しています。

講習を修了した中高生は、「武蔵野市中学生・高校生リーダー」として登録され、ジャンボリーのサブリーダーや、夏休みにおける保育園での保育体験、地域の行事やイベント等のボランティアスタッフ等で活躍しています。

写真もしくは図表等

3-2 活力のあるコミュニティの形成（特色・課題：A B C F）

学びを次の世代に継承していくためには、個人が自分のために学ぶための団体だけでなく、地域課題の解決を目指して組織されたNPO等のコミュニティも重要です。もちろん、一つの団体が両方の機能を持ち合わせている場合もあります。いずれにせよ、本市のコミュニティ活動の拠点である各コミュニティセンターと、生涯学習機能と市民活動支援機能を同時に有する武蔵野プレイスの積極的活用を軸に、学びを次世代につなぐため活力あるコミュニティの形成を推進します。

現在実施している主な事業

～武蔵野プレイスの市民活動支援事業～

【実施者】武蔵野プレイス

武蔵野プレイスには、市民活動支援機能があります。

まず、3階の市民活動フロアには簡単な打ち合わせや軽作業を行うことができるワークラウンジやチラシ等の印刷ができるプリント工房等、市民活動を支援する場の提供を行っています。

また、市民活動に関する相談業務や、市民活動に関する講座・交流会等も開催しています。

写真もしくは図表等

3-3 市の各種事業の「生涯学習化」(特色・課題：F)

生涯学習とは関係なく、市は福祉、子育て、防災、環境等、あらゆる人を対象に様々な事業を実施しており、当然のことながら、これらの多くは地域課題の解決を目的としています。そして、市民が地域の当事者として主体的に学ぶことを生涯学習の一側面と捉えれば、生涯学習は地域課題を解決する有効なアプローチの一つになりえます。したがって、今後は、教育委員会と市長部局が連携しながら、各種事業の中に生涯学習の考えをもたらしたり、見出したりすることによって、生涯学習の視点からも地域課題の解決を効果的に図っていきます。

現在実施している主な事業

～武蔵野クリーンセンターの施設見学～

【実施者】クリーンセンター

平成 29 年4月より本格稼働した武蔵野クリーンセンターの本来の目的は、市内で発生する燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、有害ごみを受け入れ、焼却等の処理をすることにあります。

しかし、循環型社会に向けての啓発の必要性から、そもそも建設の段階から「見せる施設」を目指し、休館日・休館時間を除いて誰でもいつでも見学できるよう、開放されています。

写真もしくは図表等

4 「まなびの土台」の整備

生涯学習は市民の主体的な学びが基本となりますが、これを支える土台づくりは市の役割です。あらゆる人が気軽に、身近に、そして主体的に学ぶことができるよう、市は引き続き、生涯学習に関する施設・体制の整備や、情報提供の充実、わかりやすい情報提供等を推進します。

4-1 施設の整備（特色・課題：CD）

武蔵野プレイスや図書館、市民会館、ふるさと歴史館等、市の所有する生涯学習関連施設は充実しています。したがって、今後は、既存の施設の老朽化対策を推進し、またそれぞれの施設の役割を明確にしながら、利用者に気軽さと身近さを感じてもらえるような施設を目指します。あわせて、令和2年11月に開設予定の環境啓発施設「武蔵野市エコプラザ」（仮称）における生涯学習のあり方も検討します。

現在実施している主な事業

～武蔵野プレイスの運営～

【実施者】武蔵野プレイス

平成23年、武蔵境駅前に武蔵野プレイスが開館しました。図書館機能に加えて、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援といった機能を有した複合施設で、本市の生涯学習に関する拠点となっています。

写真もしくは図表等

4-2 体制の整備（特色・課題：CD）

市の様々な部署がそれぞれに生涯学習施策を実施していることは、多様なニーズに応えることに役立つ一方で、市民がわかりにくさを感じることもありえます。したがって、財政援助出資団体も含め、生涯学習施策を展開する行政の各部局が緊密に連携するとともに、組織の整理、統合等を検討します。

現在実施している主な事業

～武蔵野プレイス関係各課連絡調整会議～

【実施者】生涯学習スポーツ課、図書館、武蔵野プレイス、市民活動推進課、児童青少年課

武蔵野プレイスの運営等について、教育委員会と市長部局の関係部署が月に一度会議を開催し、連絡調整を行っています。これにより、武蔵野プレイスを軸にして教育委員会と市長部局の緊密な連携が図られています

写真もしくは図表等

4-3 情報提供の充実（特色・課題：A B D E）

市や市民団体、大学、民間企業等が多岐にわたるテーマの学びの機会を提供しています。このような中で、市民が自分に合った学びの機会を見つけるには、市がわかりやすい情報提供をしなければなりません。したがって、市はICTの積極的な活用も検討しながら、市民が気軽に学びに取り組めるようわかりやすい情報提供を推進します。

現在実施している主な事業

～「小・中学生の講座まるごとナビ」、「大人のための生涯学習ガイド」の作成～

【実施者】生涯学習スポーツ課

学びの場を見つけようとしている人に網羅的でわかりやすい情報を提供するために、市や市民団体、大学等の提供する学びの機会について、子ども向けの場合は「小・中学生の講座まるごとナビ」に、大人向けの場合は「大人のための生涯学習ガイド」に、それぞれ冊子のかたちにまとめ、市内関係各所に配布・配架し、また市ホームページでも公開しています。

写真もしくは図表等

4-4 多様な主体との連携（特色・課題：A B）

教育委員会と市長部局、財政援助出資団体の連携はもちろん、市と市民団体や大学、民間企業等の多様な主体の連携は、行政以外の主体の活力を取り入れながら、多様なニーズに応え、また質の高い学びの機会を提供するために重要です。また、生涯学習部局と学校が連携することにより、子どもたちが生涯を通じて主体的に学ぶ姿勢を育むことは、地域社会の基盤をつくることにほかなりません。したがって、市はこれら主体と常に緊密な連携を保ちながら、市民の学びを支えています。

現在実施している主な事業

～武蔵野地域五大学共同事業～

【実施者】生涯学習スポーツ課、武蔵野プレイス、各大学

市内および近隣の5つの大学（亜細亜大学、成蹊大学、東京女子大学、日本獣医生命科学大学、武蔵野大学）と市が連携し、市民の生涯学習に寄与するために、武蔵野地域五大学共同事業を実施しています。

これにより、大学の高い専門性を生かしながら、市民に学びの機会を提供しています。

写真もしくは図表等